

主催 邦楽連合会

社団法人 義太夫協会

中央区銀座4-13-14文明堂3F
電話三五四〇一五四七一番

清元協会

港区芝四一六一二E三四〇一
電話三四五二一四〇五九番

財団法人 古曲会

新宿区西新宿六十三三〇三 養能花伝舎
電話三三四八十五〇二一番

新内協会

新宿区神楽坂六一二十七
電話三二六〇一一八〇四番

常磐津協会

世田谷区岡本一一三三二一八
電話三七〇七一一三七六三番

社団法人 長唄協会

中央区銀座二一十一一九一四
電話三五四二一六五六四番

社団法人 日本三曲協会

港区赤坂二一五二一四〇三
電話三五八五一九六一六番

(五十音順)

助成 東京都

邦楽振興基金

(CPR A 実演家著作隣接権センター)

平成二十年三月八日(土)

国立劇場小劇場

第一部 十二時開演 三時三十分終演

第二部 午後四時開演 七時三十分終演

2008 都民芸術フェスティバル助成公演

第三十八回

邦楽演奏会

邦楽名曲選

2008都民芸術フェスティバル参加公演一覧



オリンピックを日本に、2016年

*鑑賞券は、都内プレイガイド又は主催団体でお求めください。
 *□の公演は無料ですが入場整理券が必要となります。
 *詳細は、東京都のホームページ(<http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/tominfes/index.html>)又は主催団体等にお問い合わせください。

| 演目 | 開催日 | 開演時間 | 会場 | 主催団体 |
|--|-------------------------|---------------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|
| 日本オペラ協会公演 水野修孝作曲「美女と野獣」全2幕 | 1/11 1/12・13 | 18:30 15:00 | 新国立劇場 中劇場 | (財)日本オペラ振興会 03-5466-3181 |
| 東京二期会オペラ劇場公演 R・ワーグナー作曲「ワルキューレ」楽劇全3幕 (字幕付原語上演) | 2/20 2/21・23 2/24 | 18:00 15:00 14:00 | 東京文化会館 大ホール | (財)東京二期会 03-3796-1831 |
| 藤原歌劇団公演 G・ロッシーニ作曲「どろぼうかささぎ」全2幕 (字幕付原語上演・日本初演) | 3/7 3/8・9 | 18:30 15:00 | 東京文化会館 大ホール | (財)日本オペラ振興会 03-5466-3181 |
| 読売日本交響楽団 | 2/3 | 14:00 | 東京芸術劇場 大ホール | (社)日本演奏連盟 03-3437-6837 |
| 東京フィルハーモニー交響楽団 | 2/9 | 18:00 | | |
| 新日本フィルハーモニー交響楽団 | 2/13 | 19:00 | | |
| 東京都交響楽団 | 2/19 | 19:00 | | |
| 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 | 2/22 | 19:00 | | |
| NHK交響楽団 | 2/27 | 19:00 | | |
| 日本フィルハーモニー交響楽団 | 3/2 | 14:00 | | |
| 東京交響楽団 | 3/5 | 19:00 | 東京文化会館 小ホール | (社)日本演奏連盟 03-3437-6837 |
| クワトロ・ピアチェーリ「弦楽四重奏の夕べ」 | 1/23 | 19:00 | | |
| 横山幸雄「ピアノ五重奏の夕べ」 | 3/6 | 19:00 | | |
| トラッシュマスターズイズム 『trashmastersizm '08』 ～極東の地西の果て～ | 1/23・24・25・28 | 19:00 | 赤坂レッドシアター | トム・プロジェクト(株) 03-5371-1153 |
| | 1/26・27 | 14:00 19:00 | | |
| | 1/29 | 14:00 | | |
| 音楽座ミュージカル「リトルプリンス」 | 2/21 | 19:00 | 東京芸術劇場 中ホール | 音楽座ミュージカル 0120-503-404 |
| | 2/22 | 14:00 19:00 | | |
| | 2/23 | 13:00 18:00 | | |
| | 2/24 | 11:30 16:00 | | |
| | | | | |
| 「白鳥の湖」全幕 | 1/19 1/20 | 18:00 14:00 | 新国立劇場 中劇場 | 東京シティ・バレエ団 03-5638-2720 |
| 「くるみ割り人形」全幕 | 2/20・21 | 18:30 | ゆうぽうとホール | (社)日本バレエ協会 03-5437-0372 |
| 「シンデレラ」全幕(新作) | 3/15・16 | 14:00 | ゆうぽうとホール | (財)スターダンサーズ・バレエ団 03-3401-2293 |
| 「KALEIDOSCOPE」「遠い日」「カスターネット進化論」 | 2/28・29 | 19:00 | 東京芸術劇場 中ホール | (社)現代舞踊協会 03-5457-7731 |
| 邦楽演奏会 義太夫・清元・古曲・新内・常盤津・長唄・三曲 | 3/8 | 12:00 16:00 | 国立劇場 小劇場 | 邦楽連合会 03-3348-5021 |
| 日本舞踊協会公演 | 2/15・16・17 | 11:00 16:00 | 国立劇場 大劇場 | (社)日本舞踊協会 03-3533-6455 |
| 式能 | 2/17 | 10:00 15:00 | 国立能楽堂 | (社)能楽協会 03-5925-3871 |
| 「君にもできる能の世界～体験と観賞～」 | 1/12 | 15:00 | ハミングホール(東大和市民会館) *体験は13時開始 | 都民寄席実行委員会 03-5909-3081 |
| 都民寄席 三遊亭小遊三ほか | 2/9 | 14:00 | 東村山市立中央公民館 | |
| 澤孝子ほか(浪曲の会) | 2/16 | 14:00 | 江戸東京博物館ホール | |
| 鈴々舎馬風ほか | 2/24 | 14:00 | 日野市民会館 | |
| 橘家圓蔵ほか | 3/1 | 13:30 | 八王子市民会館 | |
| 桂歌丸ほか | 3/4 | 18:30 | 町田市民ホール | |
| 東京都民俗芸能大会「国指定 江戸の里神楽四社中の競演」 | 3/1・2 | 13:30 | 東京芸術劇場中ホール | 東京都民俗芸能大会実行委員会 03-5211-7366 |
| 民俗芸能大会プレ公演 東京マラソンタイアップ *観覧無料 | 2/14・15・16 2/17 | 東京ビッグサイト(東京マラソンEXPO 2008) 東京ビッグサイト | | |

*やむを得ない事情により、プログラムが変更する場合があります。



「二〇〇八都民芸術フェスティバル」の開催に寄せて

東京都知事 石原 慎太郎

「都民芸術フェスティバル」は、優れた舞台芸術に親しむ機会を広く都民に提供するとともに、東京における芸術文化活動の振興を図るため、東京都が助成して開催するもので、今年で四十回目を迎えます。東京の春を彩る行事として本フェスティバルを心待ちにしているファンも多く、今年は一月十一日から三月十六日まで、都内各地で多彩な舞台公演が開催されます。ひとりでも多くの皆様に、各会場で繰り上げられる多彩な舞台芸術を存分に堪能していただきたいと思っております。

さて、現在、東京都は、二〇一六年オリンピックの招致活動に取り組んでいるところであります。オリンピックは、「文化と平和の祭典」として有形・無形の大きな財産を残す一大プロジェクトであり、この東京で再び開催することは、若い世代への素晴らしい遺産になると考えています。

今後、開催都市の選定に向け、大規模な文化プロジェクトや様々な都市との国際交流を戦略的に展開し、伝統と最先端が織りなす東京の魅力的な文化を発信していく予定です。

こうした機会を通じて、都民の皆様が優れた東京の芸術文化に親しむとともに、オリンピック招致活動がさらに盛り上がり、期待を込めていくことを期待します。

最後に、本フェスティバルに参加された皆様のご尽力に感謝するとともに、本公演のご成功と今後益々のご発展を祈念いたします。

一、 箏曲 京^{きょう}みだれ

〈京みだれ〉

| | | | |
|------|-----|-----|----|
| 野坂衣里 | 内山操 | 朱小池 | 增尾 |
| 奈倉操 | 花岡操 | 滝田操 | 原田 |
| 佐藤操 | 高橋操 | 東操 | 荒井 |
| 藤操 | 花曙 | 久東 | 井操 |
| 野坂 | 久東 | 東操 | 原田 |
| 大竹 | 竹本 | 藤本 | 乙黒 |
| 大坂 | 小橋 | 石橋 | 熊木 |
| 野坂 | 福田 | 小橋 | 乙黒 |
| 大坂 | 福田 | 小橋 | 熊木 |
| 大坂 | 福田 | 小橋 | 乙黒 |
| 中岡 | 鶴飼 | 花岡 | 渡辺 |
| 操朝 | 操瞭 | 江川 | 渡辺 |
| 周紀 | 周誼 | 岡川 | 美和 |
| 石橋 | 花岡 | 岡川 | 香華 |
| 鶴飼 | 花岡 | 岡川 | 香華 |
| 石橋 | 花岡 | 岡川 | 香華 |
| 鶴飼 | 花岡 | 岡川 | 香華 |

二、 新内

明^{あけ}烏^{がらす}夢^{すゆめ}泡^の雪^{あわゆき}

浦里^{うらざと}部屋^{へや}

| | | | | | |
|-----|----|------|-----|-----|-----|
| 浄瑠璃 | 鶴賀 | 須磨寿々 | 三味線 | 富士松 | 菊三郎 |
| 同 | 鶴賀 | 須磨之助 | 上調子 | 富士松 | 菊子 |

三、 萩江

深^{ふか}川^{がわ}八^は景^{つけい}

| | | | | | |
|---|----|----|-----|----|-----|
| 唄 | 萩江 | ちか | 三味線 | 萩江 | 都世 |
| 同 | 萩江 | 香幸 | 同 | 萩江 | 理世 |
| 同 | 萩江 | 幸代 | 同 | 萩江 | みさと |

四、 常磐津

乗^{のり}合^{あい}船^{ぶね}恵^え方^{ほう}万^{まん}歳^{ざい}

| | | | | | |
|-----|-----|------|-----|-----|------|
| 浄瑠璃 | 常磐津 | 須磨太夫 | 三味線 | 常磐津 | 文字蔵 |
| 同 | 常磐津 | 光勢太夫 | 同 | 常磐津 | 齋蔵 |
| 同 | 常磐津 | 和洗太夫 | 上調子 | 常磐津 | 菊与志郎 |

五、

長唄

外記節 傀 儡 師

唄 杵屋 彌十郎
同 東音 渡邊雅宏
同 芳村 金四郎

三味線 稀音家 六四郎
同 稀音家 助三郎
同 稀音家 一郎

六、

清元

忍逢春雪解

みちとせ
| 三千歳 |

浄瑠璃 清元 延千宗
同 清元 延勇輝
同 清元 延明寿

三味線 清元 延秀佳
同 清元 延八寿美
上調子 清元 延美夏

七、

義太夫

壺坂 靈 驗 記

| 沢市内の段 |

浄瑠璃 竹本 駒之助

三味線 鶴澤 津賀寿

(終演予定 午後三時半ごろ)

第二部 番 組 (午後四時開演)

琴古流尺八・川瀬順輔作曲

一、尺八 泰

たい

山

さん

| | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 川瀬順輔 | 篠崎睦堂 | 小林桂輔 | 柴田庸一輔 | 鶴卷松輔 |
| 川瀬庸輔 | 前田誠幽 | 家後初輔 | 土屋勢輔 | 富樫鶴輔 |
| 北島頌輔 | 大石悠輔 | 阿部恭輔 | 田中康堂 | 加藤壽輔 |
| 齋藤秀輔 | 春田麗輔 | 井川富久輔 | 藤 筑童 | 大川原稜輔 |
| 武永駿輔 | 向 惠之輔 | 土居笙童 | 長澤彰童 | 角能菘輔 |
| 田中慕堂 | 後藤悠之輔 | 中山登輔 | 国見政之輔 | 菅原觀之輔 |
| 森本子幽 | 猪鼻伊輔 | 鈴木遊輔 | 石川優輔 | 梶田邦雄 |
| 松平貢童 | 清水晃堂 | 大島百輔 | 本間大輔 | |

二、清元

六 玉 川

む

たま

がわ

| | | | | | |
|-----|----|------|-----|----|-----|
| 浄瑠璃 | 清元 | 清栄太夫 | 三味線 | 清元 | 栄吉 |
| 同 | 清元 | 清美太夫 | 同 | 清元 | 雄二郎 |
| 同 | 清元 | 一太夫 | 上調子 | 清元 | 美十郎 |

三、新内

若木仇名草

わかきのあだなぐさ

蘭蝶

らんちょう

| | | | | | | | |
|-----|-----|----|-----|----|----|----|---|
| 浄瑠璃 | 富士松 | 小照 | 三味線 | 新内 | 勝内 | 勝一 | 凰 |
| 上調子 | | | | | | | |

四、義太夫

壺坂靈驗記

つばさかれいげんき

壺坂寺の段

つばさかであら

| | | | |
|-------|-----|-----|------|
| 沢市竹本 | 朝重 | 三味線 | 鶴澤寛也 |
| お里竹本 | 綾之助 | ツレ | 鶴澤駒治 |
| 観世音竹本 | 土佐子 | | |

五、常磐津

戾 もどり

橋 ばし

浄瑠璃 常磐津 清若太夫
同 常磐津 松重太夫
同 常磐津 秀三太夫

三味線 常磐津 一寿郎
同 常磐津 絃寿郎
上調子 常磐津 美寿郎

六、宮 菌

鳥 とり

辺 べ

山 やま

浄瑠璃 宮 菌 千 碌
同 宮 菌 千 碌 司
同 宮 菌 千 碌 季

三味線 宮 菌 千 佳 寿 弥
同 宮 菌 千 幸 寿

七、長 唄

鞞 うっぱ

猿 ざる

唄 (人間国宝)
鳥羽屋 里 長
鳥羽屋 文 五 郎
杵屋 勝 彦
杵屋 五 功 次
東音 味 見 純

囃子

三味線 松 永 忠 五 郎
同 松 永 鉄 九 郎
同 松 永 和 寿 三 郎
同 松 永 直 史 郎
上調子 松 永 忠 史 郎
笛 中 川 善 雄
小鼓 藤 舍 呂 裕
小鼓 藤 舍 呂 船
大鼓 中 井 一 夫
太鼓 藤 舍 呂 雪

(終演予定 午後七時三十分ごろ)

○一部の出演者に変更のある場合はお許し願います。

第一部

一、京みだれ

「乱輪舌(みだれ)」は、俗箏の開祖八橋検校(一六一四〜八五)の作曲と伝えられている。八橋検校は三弦の名手でもあったが、寺院に伝わっていた筑紫流箏曲を習い、それに創意工夫を加えて、箏唄をともなった「組歌」十三曲を作曲した。これが今日の箏曲の母体となっている。さらに唄のない調べ物(段物)も作ったが、その代表作が「六段の調」と「乱輪舌」である。段物とは、各段が五十二拍子、百四拍と定められているが、「みだれ」は段数・拍数の制限がなく、自由に作曲されたことが「みだれ」と言われる理由である。即興性の強い傑作として、今日でも箏曲の筆頭に挙げられている。

「京みだれ」は「みだれ」の替手ともいうべき曲で、随所に斬新な手法が用いられ、京都で弾き継がれて今日にいたっている。作者不詳であるが、一説には箏の名作を多く残した八重崎検校(？〜一八四八)の作とも言われているが、定かではない。

東京には伝わっていないが、今日はこの「京みだれ」と「みだれ」を同人数で演奏し、そのおもしろさを味わっていただけならと思っている。(野坂操壽)

二、明鳥 — 浦里部屋 —

新内節の代表曲。鶴賀若狭掾作詞、作曲。明和六年(一七六九)七月、幕府の賄方伊藤伊左

衛門の倅伊之助(二十一歳)と、吉原京町蔦屋の遊女三芳野(二十四歳)が心中するという事件が起きた。それをヒントに作曲したものというが、その前から似た作品があったのを書き直したものらしい。

春日屋時次郎は、吉原の浦里に通いつめて、父親が江戸表へ出すべき金を遣い込み、さらにあちらこちらから借金を重ねて首が回らない。死のうと覚悟をきめた時次郎は、やっとの事で浦里の部屋へ忍んできている。布団の中の二人の嘆きとクドキ。しかし怪しんだ遣手のかやに見つかってしまい、時次郎は若い衆に叩き出されるまで。このあと浦里は亭主に庭の古木にしばられて折檻される「雪責め」と続く。

全体は明和・安永ごろの吉原風俗を描き、一部には吉原案内のようなところもある。全曲を演奏すると一時間半を越す大曲なので、このように上下に分けて演奏される。

三、深川八景

荻江節の代表曲。明治十二年(一八七九)に、深川の豪商飯島喜左衛門(屋号近江屋)が四代目荻江露友を襲名した時に、その記念に作られ、披露曲として演奏されたという。作詞、作曲者ともに不明だが、四代目露友の作曲とも伝える。四代目露友の住所にちなんで深川の名所を近江八景になぞらえたもの。江戸時代後期には景色に限らず、いろいろなるものを八景に見立てるのが流行していて、浮世絵でも盛んに描かれている。

近江八景は中国の瀟湘八景(平沙落雁、遠浦帰帆、山市晴嵐、江天暮雪、洞庭秋月、瀟湘夜雨、煙寺晚鐘、漁村夕照)にならったもので、それをさらに江戸深川に移した。袖ヶ浦の帰帆、天下一の鳥居の夕照、永代寺の晚鐘、木場の落雁、塩浜の秋月、洲崎の晴嵐、佃の夜雨、二軒茶屋の暮雪。以上を深川八景に見立てたものだが、今回は一部を省略した。

四、乗合船

この作品の原作は、天保十四年（一八四三）正月に江戸市村座で上演された「魁香樹いせ物語」かしらがきで、常磐津、富本、竹本、長唄の掛合であった。三世桜田治助作詞、五世岸沢式佐ほかの作曲。それを明治二十九年（一八九六）正月に、常磐津だけで演奏するように編曲したもの。

初春の隅田川の渡し場に、船頭、白酒売り、芸者、大工、俳諧師、万歳と才蔵たちが乗り合わせ、舟から下りて、思い思いの振り事をするというもの。江戸時代後期に盛んになった七福神めぐりをヒントに、登場人物はその七福神の見立になっている。いかにも泰平の江戸のしゃれた正月気分にあふれた作品で、歌舞伎でもよく上演される。

五、傀儡師

外記節三部作（傀儡師、外記猿、石橋）の一で、四世杵屋三郎助（のち十世六左衛門）が外記節復活として作曲したもの。正本には天保七年（一八三六）七月刊とあるが、作曲は文化十二年（一八一五）であるという。

傀儡師というのは、もと平安時代に渡来してきた芸人ともいわれるが、はつきりしたことはわからない。それが一般に知られるのは江戸時代のこと、胸に箱を下げ、歌を歌いながら、その上で人形を遣つて寺社の縁起などを見せた。その遣うさまを「回す」とか「舞わす」といったので、別名を「人形回し」といった。とくに江戸時代初期に浄瑠璃と結びついて、現在の文楽の祖である「人形浄瑠璃」になった。しかし民間芸能として、古い形は伝わっていた。それを題材にしたもの。

その町々をめぐっていた傀儡師が、とあるお屋敷に招かれ、その人形回しの唄をきかせなが

ら人形を遣い、めでたく納めるという内容。「外記猿」は人形の代わりに、猿が芸をするというので、同じ趣向である。

河東節にも「傀儡師」がある。これは「外記節」からの預かり浄瑠璃と言われているが歌詞も曲節もほとんど同じ。また清元にもあるが、これは文政七年（一八二四）の初演。同じ趣向だが八百屋お七、浄瑠璃姫、船弁慶などの物語を演じるという構成。

六、三千歳

明治十四年（一八八一）三月、東京新富座で「天衣紛上野初花」くもにまごうえのはつはなの六幕目、大口屋寮の場で初演された。河竹黙阿弥作詞、二世清元梅吉作曲。

片岡直次郎（直侍）は、お尋ね者のお触れが回つて、江戸にはいられなくなり、逃げ出すことにしたのだが、その前に一目、恋人の三千歳に逢っておきたい。三千歳は病気がちで、ここ入谷の寮で療養中である。警戒がきびしいと知った直次郎は、近くの蕎麦屋で来合わせた按摩じようがの丈賀じやうがに手紙をとどけさせたあと、雪の中を忍んで行く。つかの間の対面は嬉しいが短い。やっと逢えた三千歳のクドキ「一日逢わねば…」はせつない。追いつめられた直次郎は、覚悟を決め、わが亡き跡を託して逃げて行くまで。

歌舞伎ではこの前が蕎麦屋の場で、丈賀とのやりとりがあり、舞台が回つてこの場面になる。明治期にできた清元の代表曲であり、歌舞伎でもよく上演される流行曲である。

七、壺坂靈驗記 — 沢市内の段 —

角書に「卅三所／花の山」とある。西国三十三番の札所の六番目である、大和壺坂寺観世音の靈驗記。明治二十年（一八八七）二月、大阪彦六座で初演。加古千賀作詞、二世豊澤団平作曲。

壺坂の土佐町に沢市とお里の夫婦が住んでいる。沢市は瘡瘡ほうそうのために目が見えなくなっているが、おことや三味線の稽古で、お里は夫を助け、縫い物の賃仕事や洗濯で細々と生計をたっている。二人は小さい時から許嫁で、結婚してからもう三年たっている。近ごろ七つ（午前四時ごろ）になるといなくなるのをとがめられたお里は、夫の目が見えるように、観音様へ願をかけていたのだと話す。お里は観音様を信じない沢市をせきたてて、一緒に参りをしようと、連れ立って出かけるまで。盲目の夫に尽くすお里のやさしい心が胸を打つ（第二部の解説を参照）。

第二部

一、泰山

尺八樂は本来、虚無僧ふけしゅう（普化宗）の修行のために吹かれた曲Ⅱ本曲Ⅱが、今日まで伝承されてきたもので、日本の伝統音楽の5音階の音の波動を、五臓で感じながら演奏されるのが基本です。

平成十三年に三世川瀬順輔師が中国北京の道教の気功グループに招かれ、尺八と気功の研修を行いました。その研修旅行の途上、河南省泰山に登り海棠桜の咲き乱れる山頂で、雲海のか

なたから昇るご来光を仰いだ時の感動に、道教の寺院での法要、読経と尺八の献笛のようすなどを折り込み、創作本曲としてこの「泰山」を作曲されました。今回はそれを新しく編曲して、三部合奏の形式で演奏されます。

二、六玉川

もとは富本の「草枕露の玉歌和たまがわ」。弘化三年（一八四六）ごろ三世鳥羽屋長作曲。作詞者未詳。それを清元に移したものだ、すっかり清元になっている。

古くから和歌の名所として、六つの玉川が知られていた。それを旅する心で巧みに詠み込んだ歌詞で、それぞれにゆかりのある言葉を添えてまとめたもの。六玉川は、山城の井手の玉川、近江の野路の玉川（萩の玉川）、陸奥の野田の玉川（千鳥の玉川）、紀伊の高野の玉川、武蔵の調布たすくの玉川、摂津の玉川の里。

なおこの題材は古くから作曲者の興味をひいたと見えて、箏組歌、地歌、山田流箏曲、長唄にも「六玉川」の曲がある。

三、若木仇名草 — 蘭蝶 —

新内節の代表曲。鶴賀若狭掾作詞、作曲。作曲年代は未詳。しかし文中に「身振りは中車高麗屋」とあるから、安永（一七七二〜八〇）初年ごろにはできていたらしい。

浮世声色身振師という市川屋蘭蝶は、高輪で働いていた時にお宮と出会い、夫婦になった。しかしここ吉原で榎屋このいとの此糸このいとと深く入り、妻のお宮が身売りをした身の代金まで入れあげてしまう。一方此糸は天涯孤独の身であり、四谷の遊女に売られてから蘭蝶に出会い、今は流れて吉原まで来た

が、頼る人としては蘭蝶しかない。今日も蘭蝶は此糸のところへやつてきたが、お客があるのが気に入らない。そこで此糸は蘭蝶を隣りの部屋に入れてお客に逢うのだが、そのお客は蘭蝶の妻お宮であつた。そこでのお宮のクドキ「縁でこそあれ：」は、新内節を象徴する名文句であり、よく知られている。

これも全曲を演奏すると一時間半を越す大曲なので、今日はその一部をきいていただく。

四、壺坂靈驗記 — 壺坂寺の段 —

ころは二月半ば。壺坂寺まで来た沢市は、これから三日間断食するからお里をいったん帰し、三年間もよくしてくれたお里に礼を言い、これ以上迷惑をかけまいと、谷へ身を投げて死んでしまう。戻ってきたお里は、沢市が死んだのを見て、あの世で手引をしてあげようと、杖を手に同じ谷へ身を投げる。

と、気高い上臈の姿を借りた観音様があらわれ、沢市は前世の業によつて盲目となり、二人ともに命はないものだが、お里の信心が厚いので、寿命を延ばしてやると告げて消える。沢市の目も見えるようになり、生き返つた二人は、観音様のおかげと喜び、すぐに巡礼に旅立つまで。

貧しいがお互いに信じ合っている夫婦の情愛を描いた本作は、歌詞もわかりやすく、曲もすぐれているので人気があり、歌舞伎にも脚色されている。

なお二世豊澤団平と加古千賀夫婦の作品には、本作のほか「良弁杉由来ろうべんすぎ（二月堂）」があり、明治時代の新作義太夫ではともによく演奏される。

五、戻橋

本名題「戻橋恋の角文字つのもじ」。明治二十三年（一八九〇）十月、歌舞伎座初演。河竹黙阿弥作詞、六世岸沢式佐作曲。日本演芸協会での素浄瑠璃として用意されていたものを、五世尾上菊五郎の希望で、急に舞踊化されて上演された。

京都では、正月のころから町中に鬼が出て人を食い殺すといううわさがあり、人通りはまったくなくなっていた。そこに源頼光の四天王の一人渡辺源氏げんじつな綱が、主君の手紙を届けることになった。用心のために源氏の重宝髭切丸という太刀を預かり、従者二人を連れての帰り道、一条戻橋に通るかかると、風が起り岸辺の柳が揺れる。主従が木蔭に隠れると扇折の娘小百合、実は愛宕山の悪鬼があらわれる。娘を五条の家まで送って行く途中、堀川に映つた娘の顔を見て、鬼であることを見破る。娘は色仕掛けでたらそうとするが、綱が本性をあらわせと迫るので、悪鬼は綱の襟髪をつかんで虚空へ飛び上がる。綱が髭切丸で鬼の腕を切り落とすと、綱は北野天満宮の回廊の屋根に落下した。鬼女は片腕を失つたまま黒雲の中に消えてしまう。

戻橋の伝説は古くからあるが、本作は鬼が片腕を取り戻しに来るといふ後日譚の「茨木いばらぎ」を、先に菊五郎が舞踊にしていたので、その前の話を取り上げたもの。なお「茨木」は長唄の「渡辺綱館の段」を明治二年に脚色したものである。

六、鳥辺山

延暦十三年（七九四）第五十代桓武天皇が平安京を都に定めた時、東の鳥辺山と西の仇野あだしの火葬場に定めた。鳥辺山はその時からの歴史があった。

江戸時代初めごろに、ここでおまん源五兵衛の心中事件があり、さらにお染半九郎の心中事件が起きたので、流行り唄や歌舞伎や義太夫に取り上げられ、その道行の一部が地歌に残った。明和三年（一七六六）に大坂竹本座で「太平記忠臣講釈」が上演されたが、これは「忠臣蔵」の物語。その中の劇中劇の趣向で、塩谷判官の弟縫之助が、祇園の遊女浮橋に夢中なので、取り巻き連中がおだてて鳥辺山心中の道行きをさせて遊ぶという場面（道行人目の重縫）が作られた。

その道行の場面をさらに宮園節に脚色したのが宮園鸞鳳軒らんぼうけんで、登場人物は浮橋と縫之助になった。したがってもとは流行り唄から地歌、そして義太夫節から宮園節へという流れの中で完成された三味線音楽。なお歌舞伎で上演されるのは、岡本綺堂が書いた「鳥辺山心中」で、同じ題材によったものだが、人物はお染半九郎。

七、鞆猿

明治二年（一八六九）五月稲垣抱節作詞、二世杵屋勝三郎作曲。同名の常磐津曲をさらに短く脚色したもの。登場人物は、大名と太郎冠者と猿曳。

もとの常磐津は「花舞台霞の猿曳」で天保九年（一八三八）十一月、江戸市村座初演。中村重助作詞、五世岸沢式佐作曲。狂言の「鞆猿」を脚色したもので、猿曳と女大名三芳野、奴の橘平が登場。女大名と奴は恋人のような関係にある。

長唄のこの曲は桜満開の江戸向島。猿曳が舟からあがったところへ来かかった大名は、猿の皮を鞆（矢の入れ物）に欲しいという。猿曳が猿のおかげで毎日を過ごしていると断ると、大名は矢を構えて射殺すという。猿曳は仕方なく承知し、皮に庇がつかないようにと、一打で殺す鞭を振り上げる。殺されると知らぬ猿は、無心に芸をする。それを見た大名は、あまりの不憫さに許してやり、猿曳はお礼に猿に舞を舞わせる。

勝三郎の作曲らしく、かなり皮肉で特色ある三味線の手がつけられているし、囃子も変化があつて楽しい。終りがめでたく収まっているので、今回の演奏会のおしまいの曲として、まことにふさわしい。

▽歌詞の中に今日の人権意識に照らして一部不適切な語句がありますが、古典の作品をそのまま演奏いたしますため、そのままにしたことをお許し願います。

御 礼 邦 楽 連 合 会

本日はようこそおでかけ下さりまして、ありがとうございます。ございました。何かと不行き届きの点もございました。お許しを願ひまして、どうかごゆっくりとお楽しみ下さいますよう、お願いを申し上げます。

今までは、このようにしてまとめて御鑑賞していただく機会は、少なかったように思います。その少ない機会を大切にしようと、出演者も一生懸命でございます。これからも、どうか続けて邦楽に変わらぬ御支援をいただけますように、お願い申し上げます。

来年も同じくここ国立劇場小劇場で、三月一日(日)に開催する予定でございます。番組がきまり次第、御案内をお送りいたしますので、はさみこみのアンケート用紙に、おところ、おなまえをお書き込みの上、受付にお渡し下さいますよう、お願い申し上げます。また、今日おきき下さいました御感想や御意見などもお寄せ下さいまして、よりよい邦楽のために御指導を賜りますよう、合わせてお願い申し上げます。

ありがとうございます。